

保健医療技術学部 学部基幹科目（2020年度以降第1学年次入学者適用）

区分	科目名	履修開始メスター	1	2	3	4	5	6	7	科目概要
			建学の理念に基づいて、共生と平等、人間尊重、平和への希求を体現し、人類の進歩に貢献する力を有している	医療人として常に人の側にたって、人とともに人生の苦しみとたたかう強い意志や意欲を有している	医学・医療・保健の世界で活躍するために必要な学力を有し、常に実践の質を高める努力を続ける力を有している	医療・保健の現場で必要とされる読み書き能力や良好なコミュニケーション能力を有している	研究の面白さや研究的思考方法の基礎を修得することによって、将来、臨床とともに研究も行う資質をもっている	互いの専門性の理解のうえにたつた対等な立場でのチーム医療や連携実践のあり方を追求する能力を有している	今後のさらなる医学・医療・保健の高度化・国際化・情報化に対応して活躍する力をもっている	
学部基幹	医療概論	1	○	◎				◎		保健・医療・福祉の統合が求められる社会状況の中、医療チームの成員が互いに協力して、総合的サービスを提供することが重要である。一つの問題に対して、多職種がそれぞれの専門的立場からアプローチし、意見を交換することによって全人的治療は実現する。良好な医療チームの形成は、他の専門職種を理解することから始まる。医療に関わるスタッフのそれぞれの学問体系、役割、機能、権限などを知り、相互理解を深め、症例を通して連携の方法論とチームダイナミクスについて考察する。模擬患者を利用し、カンファレンス、記録のあり方、チームによる全人的アプローチなどについて学ぶ。

作業療法学科 専門科目（2020年度以降第1学年次入学者適用）

区分	科目名	履修開始セメスター	1	2	3	4	科目概要
			作業療法に関する最新の知識と技術を理解する能力を有している	作業療法に関する体験や実践を通して得た情報を整理し応用する能力を有している	作業療法に関する専門的知識と技術を習熟する能力を有している	作業療法士として必要な企画力・表現力および円滑な対人交流を行う能力を有している	
学科基礎	入門ゼミ	2		○		○	健康科学を学ぶ学生にとって、身体の成り立ちやその維持の仕組みについて専門用語を使って理解する考え方を習得し、その基礎的知識を身につけることは、現在おこなわれている診断や治療の背景を知るために必須であるばかりではなく、将来の新しい医療技術の理解のためにも欠かせない。本講義では、今まで学んできた化学・生物の知識を確認し、専門領域に進む前段階として英語を使って基礎的理解の充実に促す。また、データ解析に必要な統計処理に関わる言語および方法の基礎を習得させる。
	リハビリテーション医学概論	1	◎				リハビリテーション医学は、人間の行動や行為の障害に対する治療を基本とする臨床医学の一分野であり、既存の専門性にとられない総合性、自立生活への指向と個人の決定の重視、「なにができるのか」に着目する肯定的な見方などを特徴とする。授業では、リハビリテーションの基礎知識、診断・評価、治療法、社会連携（地域包括ケアシステムや就労支援）、具体的疾患に対するリハビリテーションについて概説する。リハビリテーションの本質、および技術としての評価法・介入方法の概略、運動とエネルギー代謝の基礎、神経機能障害、がん、骨・関節疾患に対するリハビリテーションの概略、などの理解を目的とする。
	基礎解剖学	1	◎			○	解剖学は、生物体の正常な形態と構造とを研究する学問であり、医学の領域では人体解剖学を指す。この人体解剖学では、人間の身体づくりや形について学ぶが、その基礎は構造を明らかにすることであり、人体の構造全般について教授する。
	解剖学	2	○			◎	基礎解剖学を踏まえ、人間の生命活動、生活行動に必要な人体の構造と機能について統合的な理解をはかるため、人体各部の大きさ、構造及び諸臓器の位置関係に関して講義する。特に、骨格系、筋系、神経系については重点をおいて教授する。
	解剖学実習	3	○	◎			解剖学実習は、基礎解剖学、解剖学で学習した知識を、標本もしくは人体で確認し、立体的・構造的に理解することが目的であるが、理学療法士・作業療法士にとって特に重要な骨格系、筋系、神経系においては重点をおいて行う。
	基礎生理学	1	◎			○	生理学は生体の機能を研究する学問である。生命活動を支える生体機能は、極めて巧緻な仕組みとその働きを厳密にコントロールする制御機構によって成り立っている。本講義では、この生体機能を理解するうえで基盤的知識体系となる神経系、筋系、内臓系の働きとその制御機構についての基礎的内容を教授する。
	生理学	2	○			◎	基礎生理学を踏まえて、生命活動を支える人体の各機能系のしなやかな働きとその優れた制御機構について教授する。とりわけ理学療法および作業療法などの医療に関わる者に必要とされる、循環、呼吸、内分泌、生殖、消化・吸収、腎、感覚、運動、自律神経機能など、生活行為に深く関わる生理学について教授する。
	生理学実習	3	○	◎			生理学実習では基礎生理学および生理学で学んだ知識を実習によって体験し、人体の多様な機能と調節機構について理解を深める。さらに、実習を通して実験の進め方、研究発表の技術、科学的報告書の作成法について教授する。
	病理学概論	4	◎				病理学は疾病の原因とそれによる結果（表現系）の関連を解明する学問である。一つの結果が原因となって次の結果をもたらす場合もある。授業では、循環障害、腫瘍、感染、免疫系の異常、遺伝、代謝の異常など主要な病因と、それによって引き起こされる疾病の一般的な特徴について取り上げ、疾病の原因とその結果についての総合的な理解を目指す。
	公衆衛生学	2	◎				公衆衛生学とは「組織化した地域活動を通じて、疾病の予防、生命の延長、および肉体的精神的健康の確保と増進を図る科学・技術である」であり、疾病対策や保健・福祉対策の現状と仕組み、疫学研究手法、主要疾病の疫学と予防などについて学習するとともに、公衆衛生の領域の社会的諸問題についても教授する。
	感染管理学	2	◎				感染管理学では、在宅および病院・施設内において発生する様々な感染の問題を知り、その予防対策と対処方法について理解する。その上で、リハビリテーションを実施する際の具体的な注意点と他職種との連携の仕方を学習する。また感染経路の把握の仕方やサーベランスの重要性などマクロな視点も身につけられるように教授する。
	基礎運動学	2	◎				作業療法において評価の基本は行動観察であるが身体機能面から人の行動を理解するためには運動学の知識を身につける必要がある。その内、基礎運動学では、人の行動の基礎となる運動を運動力学・運動器の構造・関節や神経の働き・感覚・動作・姿勢・運動発達・学習など様々な側面から学習する。
	基礎運動学演習	2	◎	○			基礎運動学演習では暮らしの中で見られる様々な行動を基礎運動学や関連諸科学（心理学、対人関係学、神経学等）の知識に基づいて統合して理解し、演習を通して逆にそれらの知識を人の動作や行動の実際に結びつける技術・視点を身につける。
内科学Ⅰ	3	◎				内科学の総論として疾病の概念、診断・治療学の基礎、加齢により生ずる変化を理解できるように講義する。リハビリテーション医療において、運動障害や機能障害、精神障害に直接的あるいは間接的に関与する疾患のなかで、特に循環器、呼吸器、消化器、血液疾患について、それぞれの病因や病態、診断、治療、予後について教授する。	

区分	科目名	履修開始セメスタ	1	2	3	4	科目概要
			作業療法に関する最新の知識と技術を理解する能力を有している	作業療法に関する体験や実践を通して得た情報を整理し応用する能力を有している	作業療法に関する専門的知識と技術を習熟する能力を有している	作業療法士として必要な企画力・表現力および円滑な対人交流を行う能力を有している	
学科基礎	内科学Ⅱ	3					内科学の総論として疾病の概念、診断・治療学の基礎、加齢により生ずる変化を理解できるように講義する。リハビリテーション医療において、運動障害や機能障害、精神障害に直接的あるいは間接的に関与する疾患のなかで、特に、脳・神経、内分泌・代謝、腎・泌尿器、感染症、免疫・アレルギー疾患について、それぞれの病因や病態、診断、治療、予後について教授する。
	精神医学	4	◎				精神医学では精神医学・精神医療の歴史を理解しながら、精神・身体症状や疾患、障害を神経生理・身体機能と関連づけて学習する。また代表的な精神疾患や精神障害についての知識を身につけるとともに、精神医学における治療の概念や治療の捉え方についての学習を深める。
	臨床心理学	4	◎				臨床心理学では領域・専門に関わらず療法の基礎となる人間理解について心理学の歴史・各種理論・各種技法から学習する。またその学習を踏まえて、悩むこと・行動・障害・病理・人間関係・回復などを人としての存在から捉える視点を身につける。 幼小児期から壮年・老年期までの生涯発達という捉え方を基礎にして、各発達期を相互に関連付ける時系列的な理解と生活を医療・福祉にとらわれずに幅広く捉える空間的理解の相互作用の中で統合する視野を身につける。また各発達段階での課題達成の状況が障害を抱えた際にどのように影響してくるかを自己決定、自立をキーワードにして学習する。
	神経内科学Ⅰ	3	◎				神経内科学Ⅰでは、意識障害、運動麻痺や失調の病態、高次脳機能障害などの総論に加えて脳血管障害、末梢神経疾患、筋疾患、神経変性疾患などの病態について教授する。とりわけリハビリテーションと関連づけて神経学的徴候、病態、病理、各種検査所見、治療、予後などを解説し、リハビリテーションプログラム作成を考慮した講義とする。
	神経内科学Ⅱ	3	◎				神経内科学Ⅱでは、神経内科学Ⅰで履修した神経内科学の総論を基礎とし、さらに認知症・脱髄疾患・腫瘍性疾患・感染症疾患・機能的疾患・全身疾患に伴う神経症候などの病態について教授する。神経内科学Ⅰと同様に、リハビリテーションと関連付けての疾患の解説を軸に、病態・症状に対応した訓練プログラムの立案・実践を目標とした講義を行う。
	整形外科Ⅰ	3	◎				筋・骨格系、運動器系の診療に必要な発症病理、診断法について解説し、医学領域・診療科としての整形外科の基本的な考え方や代表的な治療法について概説する。具体的には診断・治療総論、外傷、関節疾患、炎症性疾患、骨軟部腫瘍などの概説に続いて、各解剖単位ごとの代表的疾患の診断治療を、機能解剖と関連づけながら述べる。整形外科Ⅰでは解剖単位として上肢と頸椎を取り上げる。
	整形外科Ⅱ	4	◎				「整形外科Ⅰ」に引き続き、筋・骨格系、運動器系の診療に必要な発症病理、診断法について解説し、医学領域・診療科としての整形外科の基本的な考え方や代表的な治療法について概説する。具体的には胸椎・腰椎疾患、下肢の疾患に続いて、高齢者に特有の疾患やスポーツ傷害、筋・骨格系の画像診断についても講義する。治療に関連の深い機能解剖、病態生理、疾患概念の理解に特に力を置く。
	脳神経外科学	3	◎				脳神経外科に必要な解剖、神経学、検査画像などを通じて、基本的な脳の構造、生理学的な働きを理解することで、多くの疾患や障害の起こり方の正確な知識を基にした対処法を考える力を養う。また、基本的手術法、診断技術について学び、腫瘍、血管障害、先天奇形、外傷、感染症、機能的異常などの各疾患についての手術を主とする治療法を理解し、術後（術前を含め）のリハビリテーションが円滑に行われるようにする。
	小児科学	4	◎				小児科学は、小児を対象とした内科学であり、出生直後の新生児から、一般には15歳までを対象としているが、その範囲は、救急、保健、心の問題、母子関係といったように極めて広いものである。ここでは、リハビリテーションを必要とする小児疾患の診断と治療を主に、小児リハビリテーションに必要な小児科学の知識と技術を教示することを目的とする。
	画像診断学	4	◎				画像診断は、近年の技術進歩によって医療現場において不可欠なものとなっている。特に、リハビリテーション分野の対象疾患である整形外科的疾患、及び脳血管障害等の治療において障害部位の確認は回復予後において関係がある。理学療法士・作業療法士にとってX線・MRI等の知識を学ぶことは大切であり、画像をとおしてリハビリテーションの対象疾患の所見について講義する。
	救急医学	4	◎				リハビリテーション医療において、緊急を要する疾患や不慮の事故に遭遇するのは避けられないものであり、理学療法士および作業療法士には救急医療への対応が求められている。医療人として冷静かつ適切に心肺蘇生を含む救命処置が実践できるように教授する。さらに、循環不全や呼吸不全、中枢神経障害、外傷、熱傷、精神科疾患などの重症救急疾患の病態と診断および治療、災害医学、脳死と臓器提供などについても理解できるように講義する。
	薬理学	5	◎				医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など多職種チームでリハビリテーションに従事する職種につく者として、理学療法士、作業療法士には、対象者の理解と評価のため、薬理学の基本的な知識が必要である。本講義では、薬剤の作用機序、体内動態などについての基本的な概念を学ぶとともに、理学療法士、作業療法士にとって特に重要な呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患、神経疾患、精神疾患などの治療薬についての実践的な知識を修得することを目標とする。

区分	科目名	履修開始セメスター	1	2	3	4	科目概要
			作業療法に関する最新の知識と技術を理解する能力を有している	作業療法に関する体験や実践を通して得た情報を整理し応用する能力を有している	作業療法に関する専門的知識と技術を習熟する能力を有している	作業療法士として必要な企画力・表現力および円滑な対人交流を行う能力を有している	
学科基礎	栄養学	2	◎				栄養学とは、食品やその中の成分、栄養素がどのように人間の体の中で利用されたり影響されたりしているかを食品や食事の面から研究する学問であるが、近年、経口摂取を含めて栄養状態がリハビリテーションを行う上で重要視されている。それは、栄養が生命維持は言うに及ばず生活活動や健康の維持・増進に必要な物質を外界から取り入れてこれを利用する現象を指すからである。この栄養学を医療およびリハビリテーションに関連させて講義する。
	基礎作業学	3	◎		○		作業療法は多くの学問を基礎として成立しているがそれらを系統的に理解することで根拠のある療法を実践でき効果を上げることが出来る。その内、基礎作業学では、基本となる理論の概略を知り、日常生活上の出来事作業療法という視点で再度見直すことで科学的に思考する態度を身につける。またこれらの学習過程を通して人を心理・身体・社会という多面的な視点で理解する専門性を養う。
	基礎作業学演習	4	○	◎	○	○	基礎作業学演習では、基礎作業学での学習を踏まえながら具体的な作業活動（織物、木工等）体験をする中で、系統的な作業療法を構築できるように、作業療法の過程に関して、必要な知識と技能を習得する。
	作業療法学概論	1	◎				作業療法学概論では、生活の中で作業活動がどのような意味を持ち、どのような形をとって行われているのかを歴史的経過や国内外の作業療法の現状から学習する。また作業療法はなぜ障害の回復や生涯発達に効果を持つのかということについて問いかけ、作業療法士としてのidentity形成を促進する。
	作業療法研究方法論	6	◎		○		作業療法では多要素の組み合わせで起きてくる生活障害に関わるために、学問上の研究だけでなく臨床に直接役立つ臨床研究が不可欠となっている。その内、作業療法研究方法論では研究方法の種類や研究過程、論理性を理解する中で、ライフスタイルや病気・障害の影響を研究という視点で眺める科学的専門性や、研究テーマをデータ・考察へと絞り込んでいく際の倫理性を学習する。
	作業療法管理運営論	6	◎		○	○	作業療法管理運営論では作業療法部門を管理運営する際に必要なマネージメントの視点を学習し、関連法規・診療報酬・介護報酬・人的資源や物的資源・同僚や他職種との協働などの実際について知識を習得する。また組織運営に必要なコミュニケーションの在り方、マネージメントを実践する上で障害となる課題について検討する。
	作業療法評価学総論	3	◎		○		作業療法は評価－計画－治療－再評価という過程を繰り返していくが、人の生活を健康とセルフコントロールをキーワードにして心身機能・活動・参加の状態を評価して対象者（サービス利用者）のニーズを見つけ出し、作業療法を提供していくことになる。その内、作業療法評価学総論では評価という言葉の持つ意味、評価手段、評価によって得られる結果などを理解する中で作業療法における評価の基本的な捉え方や枠組みを学習する。
	作業療法評価学演習	5		◎	◎	○	実際の臨床場面に近いシナリオを用いて実技を練習し、科学的視点、利他的行為者姿勢、実地技術、対人関係能力などが臨床実習に必要なレベルに達することを目的とする。授業では練習のみではなく、客観的臨床能力試験(OSCE)を用いて自身のレベルを確認するとともに教員よりフィードバックを受け不足している臨床能力に気づき獲得を目指す。
	日常生活機能評価学演習	4	○	◎	◎		日常生活機能評価学演習では、作業療法評価学総論で学習した評価の基本的な捉え方や枠組みを基礎にして、基本的日常生活活動（ADL）や手段的日常生活活動（IADL）、生産的活動、余暇活動、地域における生活技能、社会技能などを、心身機能・身体構造、活動と参加、環境因子、個人因子と関連づけて評価する技術を演習を通して学習する。
	感覚・運動系評価学演習	3	○	◎	◎		感覚・運動系評価学演習では作業療法評価学総論で学習した評価の基本的な捉え方や枠組みを基礎にして人の行動で見られる感覚や知覚、運動や動作などを、健康状態や各疾患・障害、心身機能と関連づけて評価する技術を演習を通して学習する。
	精神・社会系評価学演習	4	○	◎	◎		作業療法評価学総論で学習した評価の基本的な捉え方や枠組みを基礎として、精神科医療や作業療法の歴史、精神科領域で用いられる基礎理論について学習する。それらの知識を踏まえ、精神科領域における対象者の抱える活動・参加上の問題点を理解する観察視点や面接（作業面接含む）方法、使用頻度が高い検査法等を、実技を交えた演習形式で学習し評価の過程を学ぶ。また、それらの問題の原因を多方面からとらえる技術、支援策を考えると云った治療計画立案の基礎的な考え方について学習する。
	発達系評価学演習	3	○	◎	◎		発達系評価学演習では作業療法評価学総論で学習した評価の基本的な捉え方や枠組みを基礎にして人の行動を素質・環境の相互作用として時間系列的に理解しながら、発達障害として現れてくる様々な課題を成人期の障害との違いを認識しつつ、健康状態や障害、心身機能や家族関係などの環境因子、性格などの個人因子と関連づけて評価する技術を演習を通して学習する。
高次脳機能系評価学演習	5	○	◎	◎		作業療法評価学総論で学習した評価の基本的な捉え方や枠組み、加えて解剖学や生理学で学習した脳の構造と働きなどの知識を基礎として、情動・注意・認知・記憶などの高次脳機能とは何かについて学習する。また、脳が損傷された場合に生じる失語・失認・注意障害など高次脳機能障害について学ぶと共に、そのような障害が生活に及ぼす影響に気づき、原因を特定し、支援策を考えると云った評価技術と過程や治療計画立案について、実技を交えた演習形式で学習する。	

区分	科目名	履修開始セメスター	1	2	3	4	科目概要
			作業療法に関する最新の知識と技術を理解する能力を有している	作業療法に関する体験や実践を通して得た情報を整理し応用する能力を有している	作業療法に関する専門的知識と技術を習熟する能力を有している	作業療法士として必要な企画力・表現力および円滑な対人交流を行う能力を有している	
学科基礎	作業療法コミュニケーション学	3		○	○	◎	作業療法士として、対象者、家族と良好な関係を築き、援助していくために、また多職種と連携していくために、言語的・非言語的コミュニケーションが必要である。様々な臨床場面において必要とされる「きく力」、「伝える力」を習得するために、コミュニケーションスキルに関する知識と技術を演習を通して学習する。
	作業療法特論	6		○	○		作業療法特論では、作業療法概論や評価学で学習した作業活動の意味、治療効果の現れ方、回復過程などについて、現在国内外で行われている研究や治療から学習する。
学科専攻	感覚・運動系作業治療学Ⅰ	4	○	○	◎		感覚・運動系作業治療学Ⅰでは、人の行動で見られる感覚や知覚、運動や動作などについて、健康状態や障害、心身機能や家族関係などの環境因子、性格などの個人因子と関連づけた評価に基づいて治療する際の、脳血管障害や整形外科疾患、内部障害などの疾患や障害に特有な働きかけの仕方・場面設定・注意事項・治療理論・治療技法・回復過程の概略について学習する。
	感覚・運動系作業治療学Ⅱ	5	○	○	◎		感覚・運動系作業治療学Ⅱでは、保健医療福祉とリハビリテーションの観点から、神経筋疾患、ターミナルケア、関節リウマチ等に対する作業療法の適用に関する知識と技術を習得する。また、対象者に応じた介入や生活を支援するために必要な課題解決能力を培う。
	感覚・運動系作業治療学演習	6		◎	◎	◎	感覚・運動系作業治療学演習では、感覚・運動系作業治療学Ⅰ・Ⅱで学んだ疾患や障害（脳血管障害や整形外科疾患、神経筋疾患、内部障害など）に応じた課題解決能力を培うため、心身機能、活動と参加、個人因子、環境因子と関連づけた評価に基づいて治療する際の、疾患や障害に特有な治療方法の実際について視聴覚教材および学生同士でのロールプレイ等の演習により学習する。
	精神・社会系作業治療学	5		◎	◎	○	精神・社会系作業治療学では、健康状態や障害に影響する心身機能・活動と参加・背景因子の評価に基づいて治療する際、統合失調症、気分障害、神経症、依存症、認知症などの多様な各障害、各病期、各年齢層に対応した課題解決方法・留意事項・治療理論・治療技法の概略と実際について学習する。
	精神・社会系作業治療学演習	6		○	◎	◎	精神・社会系作業治療学演習では、精神機能や社会的背景などの評価に基づいて治療する際の臨床技能および地域生活に向けた自立支援、就労支援、多職種連携を学習する。精神・社会系作業治療学で学んだ疾患や各障害に応じた課題解決能力を培うため、視聴覚教材および学生同士でのロールプレイ等の演習により学習する。
	発達系作業治療学	5		◎	◎	○	発達系作業治療学では、人の行動を時間系列的に理解しながら発達障害として現れてくる様々な課題を健康状態や障害、心身機能や家族関係などの環境因子、性格などの個人因子と関連づけた評価に基づいて治療する際の働きかけの仕方・場面設定・注意事項・治療理論・治療技法・回復過程・成長過程の概略と脳性麻痺、自閉症などの疾患や障害に特有な働きかけの仕方・場面設定・治療理論・治療技法・回復過程等の実際について学習する。
	発達系作業治療学演習	6		◎	◎	◎	発達系作業治療学演習では、人の行動を時間系列的に理解しながら発達障害として現れてくる様々な課題を健康状態や障害、心身機能や家族関係などの環境因子、性格などの個人因子と関連づけた評価に基づいて治療する際の脳性麻痺、自閉症などの疾患や障害に特有な働きかけの仕方・場面設定・治療理論・治療技法・回復過程等の実際について演習して学習する。
	高次脳機能系作業治療学	6		◎	◎	◎	高次脳機能系作業治療学では、脳の機能の一部が障害されることによる起こる前頭葉機能障害や記憶、認知、行為・行動の障害等に対する作業療法の適用に関する知識と技術を習得する。また、保健医療福祉とリハビリテーションの観点から、高次脳機能障害を伴う対象者の社会生活を支援するために必要な課題解決能力を培う。
	地域作業治療学	3		◎	○		地域作業治療学では、病気や障害を抱えながら在宅で生活している人の生活の質（QOL）の向上を中心として援助・協働していく視点、ノーマライゼーションを実現する上での2つのアプローチ、地域社会のソーシャルサポートシステムの理解、地域で実践する独自の援助技術・バリアフリー・住環境改善などについて学習する。
	地域作業治療学演習	8		◎	○	◎	地域（コミュニティ）で実際に展開されている感覚・運動系、精神・社会系、発達系、高次脳機能系、老年期などの各種領域における作業療法の実際を理解し専門性を養う
	老年期作業治療学	4		◎	◎		老年期作業治療学では、身体機能低下・脳血管障害・骨関節疾患・認知症・自立生活困難・健康維持など高齢者が抱える生活上の問題を加齢や生涯発達という枠組みの中で捉えながら介入していく視点と技術、作業療法プログラムについて学習する。また入院・入所や廃用性低下など環境の変化や周囲からの関わり方が活動・参加に及ぼす影響をプラス面だけでなくマイナス面からも理解する包括的な視野を養う。
	生活行為援助論	5	○	◎	○		生活行為援助論では、生活行為、すなわち基本的日常生活活動（ADL）や手段的日常生活活動（IADL）、生産的活動、余暇活動、地域における生活技能、社会技能などについて、感覚・運動系、精神・社会系、発達系、高次脳機能系、地域・老年期で学習する知識・技術・視点を統合して援助する方法論を学習する。また、福祉用具、住環境整備を理解して、対象者を援助する方法を学習する。
	生活行為援助論演習	5	○	◎	○		生活行為援助論演習では、生活行為、すなわち基本的日常生活活動（ADL）や手段的日常生活活動（IADL）、生産的活動、余暇活動、地域における生活技能、社会技能などについて、感覚・運動系、精神・社会系、発達系、高次脳機能系、地域・老年期で学習する知識・技術・視点を統合して援助する方法を、シミュレーション事例に対する援助方法を検討する演習を通して学習する。

区分	科目名	履修開始セメスター	1	2	3	4	科目概要
			作業療法に関する最新の知識と技術を理解する能力を有している	作業療法に関する体験や実践を通して得た情報を整理し応用する能力を有している	作業療法に関する専門的知識と技術を習熟する能力を有している	作業療法士として必要な企画力・表現力および円滑な対人交流を行う能力を有している	
学科専攻	リハビリテーション工学演習	6	○	◎	○	◎	リハビリテーション工学演習では、義肢装具を生活の中で活かすための技術や生活の幅を広げるための義肢装具の活用を中心に、機能・構造・適応・使用例について学習する。また、その知識を活かして義肢装具の作成ができるように簡単なスプリントの作成を行い、機能・構造・適応・使用例についての実験を演習等によって学習する。
	臨床基礎実習Ⅰ	1	○	○		◎	臨床基礎実習Ⅰでは作業療法士が働く病院・施設等の実際について見学を通して臨床的知識を得て、専門職としてのマナー、リハビリテーションの在るべき姿、病院・施設等の地域社会での役割、チームアプローチの実際等について学習する。また、基礎実習Ⅰでは教員や臨床実習指導者の指導を受けながら、学習内容のフィードバック・指導を行う。
	臨床基礎実習Ⅱ	4	○	○	○	◎	臨床基礎実習Ⅱでは、作業療法士が行う評価・治療・指導・準備場面等を見学・体験することを通して作業療法の実践について臨床的知識を得て、作業療法の視点、学内で学ぶ知識・技術を臨床場面の実際に関与する視野、評価の実際等について学習する。また、基礎実習Ⅱでは教員や臨床実習指導者の指導を受けながら、学習内容のフィードバック・指導を行う。
	臨床評価実習	6	○	◎	◎	◎	臨床評価実習では、臨床基礎実習Ⅰ・Ⅱおよびこれまでの学習成果を踏まえ、臨床実習指導者の指導・監督のもと、学生が臨床チームに参加することにより、チーム員としての責任と自覚を培い、臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力を主体的に学習する。また、臨床評価実習では教員や臨床実習指導者の指導を受けながら、学習内容のフィードバック・指導を行う。
	総合臨床実習Ⅰ	7	◎	◎	◎	◎	総合臨床実習Ⅰでは、臨床評価実習までの学習成果を踏まえ、臨床実習指導者の指導・監督のもと、学生が臨床チームに参加することにより、チーム員としての連携方法を培い、作業療法士の臨床思考過程と、各障害、各病期、各年齢層に対応できる実践能力を主体的に学習する。また、総合臨床実習Ⅰでは教員や臨床実習指導者の指導を受けながら、学習内容のフィードバック・指導を行う。
	総合臨床実習Ⅱ	7	◎	◎	◎	◎	総合臨床実習Ⅱでは、総合臨床実習Ⅰまでの学習成果を踏まえ、臨床実習指導者の指導・監督のもと、学生が臨床チームに参加することにより、チーム員としての連携方法を培い、作業療法士の臨床思考過程と、これまでに実習経験のない障害、病期、年齢層にも対応できる実践能力を主体的に学習する。また、総合臨床実習Ⅱでは教員や臨床実習指導者の指導を受けながら、学習内容のフィードバック・指導を行う。
	総合臨床実習Ⅲ	8	◎	◎	◎	◎	総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの学習成果を踏まえ、地域に生活する対象者を支援するための作業療法実践に必要な知識、技術を体験・学習し、課題解決能力を培う。3週間の実習のうち少なくとも1週間は通所・訪問リハビリテーション提供施設で実習をするとともに、出来るだけ医療提供施設以外の施設における実習も経験し、地域で実践されている作業療法の役割を広く体験し学ぶ。
	卒業研究	8	○	◎	○	◎	卒業研究では、作業療法研究方法論での学習を踏まえながら、学問上の興味・関心や臨床実習で抱いた疑問を研究テーマに表現しデータ・考察へと絞り込んでいく研究過程を教員の指導のもと、体験・学習し、研究を行う上での基礎的スキルを養う。
作業療法総合演習	8	◎	○	○		作業療法士として臨床応用できる最新の保健・医療・福祉などに関する知識や技術を包括的に学習し専門性を養う。	
関連	生化学	1	△		○		人間が健康に生きていくためには、全身的恒常性を保つことが大切である。恒常性を維持するため、常に外界との間で物質交換がおこなわれており、それが化学的・物理的法則に基づいて繰り返される様々な化学反応に依存したものであることを、生化学の分野から概説する。生体分子の構造と化学的性質、生体触媒である酵素の役割を中心とした生体エネルギー学と代謝、遺伝情報の伝達等について講義する。また、近年は遺伝子診断が広範に実施されている。医療従事者に必要とされる基礎的知識を概説し、あわせて遺伝子検査に関わる生命倫理についても解説する。
	高齢者ケア論	3	○				高齢者が毎日安心して暮らし、自分らしく過ごすことができるよう、また、QOL（生活の質、人生の質、生命の質）の向上が図れるよう、介護についての基礎知識・技術を理解する。ADLや生活環境等を把握しながら、介護はどうあるべきかを学ぶ。 1. 介護とは 2. 介護と家族 3. 介護政策の動向 4. 身辺介護 5. 心理的援助 6. 生活の自立とは 7. 住環境の整備 8. 関連職種とチームケア

区分	科目名	履修開始セメスター	1	2	3	4	科目概要
			作業療法に関する最新の知識と技術を理解する能力を有している	作業療法に関する体験や実践を通して得た情報を整理し応用する能力を有している	作業療法に関する専門的知識と技術を習熟する能力を有している	作業療法士として必要な企画力・表現力および円滑な対人交流を行う能力を有している	
関連	障害児者ケア論	3	○				<p>障害児を育てるにあたっては、子どもの障害や発達についての正確な理解や適切なサポートが必要である。家族のかかえる困難や悩みについて深め、必要な社会支援システムを考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児を育てること 2. 家族の悩みについて 3. きょうだいの悩みについて 4. 障害児の自立と家族 5. 支援のシステムについて 6. 専門機関のあり方について 7. 支援の専門性について
	居住福祉論	3	○				<p>住居および住居を核とする地域環境、即ち「居住環境」は在宅福祉の根幹である。居住福祉を主体者として捉え、より良くしていく基礎を理解し、居住福祉が抱える課題の現在と未来について考察を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 居住の質 <ul style="list-style-type: none"> - 人住まい・生活行為と住まい・住空間の成り立ち- 2. 心地よい居住 <ul style="list-style-type: none"> - 安全性・快適性・衛生性・利便性・持続可能性- 3. 生活障害と居住-乳幼児期・高齢期・障害を持つ時期- 4. 居住福祉の広がり-多様に集まって住まう空間- 5. 居住福祉の広がり-地域環境の現状とあり方-
	精神保健福祉論	3	○				<p>本講義では、精神障害者への社会政策の一環としての社会福祉サービスの歴史と理念の理解を基盤に、必要な法制度、援助活動、関連政策について理解を深める。さらにその上にとって精神保健福祉士の仕事の理念、意義、役割について論じる。そのために以下の内容を含むものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者福祉の歴史と理念、意義 2. 障害及び障害者の概念とその特性 3. 障害者福祉の基本政策 4. 現代社会と精神障害者
	医学一般	3	○				<p>「健康とは何か」の考察からスタートし、臨床医学・医療の諸相について外科系の総論を中心に概説する。病態生理の理解に主眼をおく。また、他の離床医学系科目でカバーされていないテーマも取り上げる</p> <p>1 健康とは、2 外科の歴史・がんの外科治療、3 肝移植とサルコペニア、4 外傷総論、5 創傷治癒・熱傷、6 麻酔、7 輸血、8 呼吸器外科・心臓外科総論、9 がん薬物療法総論、10 放射線治療総論、11 小児がん治療、12 血液疾患、13 糖尿病、14 内分泌疾患、15 老年医学</p>
	精神科リハビリテーション学	5	○	○	○		<p>精神科リハビリテーション学とは、単なる精神科治療の一分野ではない。精神に障害を持った人が、人としての尊厳をとりもどして生きていけるようになるのか、ということを経験的に考える分野である。この授業では、精神科リハビリテーションの概念・技術・制度等について修得することを目標とする。</p>
	健康科学論	5	○	○	○		<p>従来健康は病気の対立概念として静的にとらえられてきたが、現在では積極的な健康への取り組みを本質とする動的な概念としてとらえられるようになった。この意味で健康を理解するためには、生物学・医学的知識のみでは不十分であり、哲学、倫理学、社会学、心理学といった他の学問領域の知識と考え方を総合的に学ぶ必要がある。本講座は健康という観点から、これまで学んできた基礎医学、臨床医学、その他の学問領域の知識を再構築することを目的とする。</p>